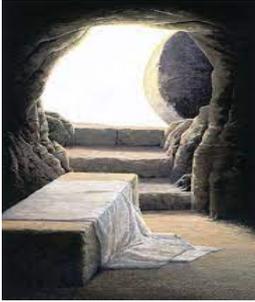


「疑いから、信仰の告白に」

ヨハネの福音書 20 章 19～29 節



12 弟子の一人であったトマスについてのエピソードは、多くはありません。でも彼の言葉や行動に、私は親しみを覚えます。たとえばイエス様が「わたしはどこに行くのかあなたがたは知っています」と言った時、彼は「主よ、どこへ行かれるのか私たちには分かりません」と言います。また、この箇所でも「見なければ信じない」と言いました。彼は正直なのだと思います。だから、信じる時もまた、「私の主、私の神よ」と、自分の信仰を表すことに躊躇しません。

① トマスはいっしょにいなかった

“十二弟子の一人で、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。” 24

“ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。”

ヘブル10:25

② トマスは人々の証を信じなかった

“そこで、ほかの弟子たちは彼に「私たちは主を見た」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を見て、釘の跡に指を入れ、その脇腹に手を入れてみなければ、決して信じません」と言った。” 25

“私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと、また、ケファに現れ、それから十二弟子に現れたことです。…” 1コリ15:3-

③ イエスキリストはトマスのところに来られた

“八日後、弟子たちは再び家の中におり、トマスも彼らと一緒にいた。戸には鍵がかけられていたが、イエスがやって来て、彼らの真ん中に立ち、「平安があなたがたにあるように」と言われた。それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしの脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」トマスはイエスに答えた。「私の主、私の神よ。」” 26-

<話し合ってみましょう>

- ・ 私たちは今、この時のトマスのように自分のこの目で直接イエスキリストを見ることはありません。しかし、私たちは復活されたイエスキリストに会った人たちの「私たちは主を見た」という証言を信じることができるのです。このことをあなたはどのように思いますか。